

ロス・ソーバン 研究員（カンボジア）

カンボジアは、国土の 85%以上がメコン川の下流域に位置する地理的条件から、モンスーンの雨による洪水被害を受けやすい国となっています。大洪水の発生により、高潮がダムを押し流し、農作物に壊滅的な損害を与え、家屋や社会的インフラ基盤に深刻な影響を与えます。1994 年、1996 年、1999 年に発生した洪水、そして単独で死者 347 名、直接経済損失 1 億 5,700 万米ドルを引き起こした 2000 年の大洪水は、人々の生命や生活に甚大な被害をもたらしただけでなく、カンボジアの開発プロセスを阻害し、貧困問題の悪化をも引き起こす事態となりました。



洪水の度重なる発生を受けて、カンボジア政府では、1995 年、閣僚評議会下に位置する省庁間機関として、国家災害対策委員会（NCDM、議長：首相）を設立し、政府に対して災害対応に必要なアドバイス、調整、普及、提案を行っています。

私は、2002 年 6 月よりカンボジア国家災害対策委員会、防災・法律担当顧問として勤務していましたが、この 2005 年 1 月から ADRC の客員研究員として赴任し、2005 年 7 月まで滞在することとなりました。

起伏の激しい地形を有する日本は、深刻な災害国の一つであるといえ、台風、豪雨、洪水、地滑りといった様々な災害に度々見舞われています。その一方で、このような災害経験を生かすことにより、日本は、優れた組織を構築し、先端技術を数多くの防災活動の中に上手に適用しています。そして、防災先進国として世界でも中心的な役割を担っており、多くの人々が日本の防災を学び、研究を行っています。

私もそのうちの一人として、NCDM が必要としている政策レベルでの防災、とりわけ日本の災害対策基本法がカンボジアでまだ整備されていないことから、日本滞在期間中は、関連法や政策面の切り口から日本の防災の枠組みについて研究を進めていきたいと考えています。私はまた、カンボジアと日本の間の協力関係を一層促進し、今後の NCDM とカンボジアの一助となる具体的な知見を得て、帰国したいと思っております。